

J  
H  
F  
S  
JAPANESE  
HEART  
FAILURE  
SOCIETY

JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

*News Letter*

Vol. 8, No. 3, 2004

発行：2004年9月1日  
日本心不全学会  
Japanese Heart Failure Society  
<http://www.jhfs.gr.jp/>

CONTENTS

1  
2  
7  
10  
22  
23

緊急会告

第8回日本心不全学会総会・学術集会のお知らせ

●藤原久義（岐阜大学大学院医学研究科）

〈心不全治療のトピックス〉 VALUE 試験

●鈴木 純，檜垣實男，堀内正嗣（愛媛大学医学部）

平成16年度日本心不全学会総会議案書

学会カレンダー（2004年）

日本心不全学会 News Letter 編集事務局・日本心不全学会事務局よりお知らせ

2004年9月9日

「緊急会告」

日本学会事務センターの破産及び学会費の納入口座について

既に新聞等で報道されておりますが、日本心不全学会が学会事務業務を委託してきまし
た財団法人日本学会事務センターが、8月17日東京地方裁判所から破産宣告を受けまし
た。現在、同センターは裁判所から選任された破産管財人の管理下におかれ、9月16日
には職員が全員解雇されます。

学会名義の預金通帳は9月7日に返還されましたが、本年度、会員の皆さまより振り込
まれた年会費の大部分がまだ預金に組み入れられていなかったため、約600万円の損害が
発生する見込みです。正確な被害額については破産管財人の調査が終わったあと、9月末
頃に明らかになりますので追ってご報告いたします。これらの被害については管財人によ
る刑事責任追及ならびに他の学会とも協力して学会事務センターの経営陣の責任を追及し
ていくつもりです。

なお、既に日本学会事務センターでは、学会費振込みなどの通常業務は出来ません。
そこで、日本心不全学会では、学会費納入口座を開設いたしましたので、年会費のお支
払いは、下記の郵便振替口座にお振込みくださいますようお願いいたします。

本学会としては、できるだけ早く新たな事務体制を整備し、学会運営に支障をきたさな
いよう最大の努力をしております。今後の状況につきましては、ホームページ上・ニュー
スレター等でご報告申し上げます。

できるだけ速やかな学会業務の移行を目指していますが、本学会の関連資料が9月末ま
で日本学会事務センター破産管財人の管理下にあるため、ご迷惑をおかけすることがある
かと存じますが、事情をご理解のうえご協力を頂きますようお願い申し上げます。

口座名 日本心不全学会
郵便振替 00130-7-667858
口座開設日 2004年8月25日

日本心不全学会
理事長 堀 正二

日本心不全学会組織

- 理事長 堀 正二
○理事 磯部光章 井上 博 今泉 勉 大江 透 小川 聡 笠貫 宏 北島 顕
白土邦男 竹下 彰 友池仁暢 土居義典 永井良三 菱田 仁 藤原久義
松崎益徳 松田 暉 山口 巖 横山光宏 吉川純一
○監事 和泉 徹 藤田正俊
○評議員 相澤義房 麻野井英次 東 純一 安達 仁 飯島俊彦 井内和幸 池田宇一
石川利之 石川義弘 石田良雄 石橋 豊 和泉 徹 磯部光章 磯山正玄
一色高明 伊藤隆之 伊藤正明 伊藤 宏 伊藤正明 上松正朗 猪又孝元
今泉 勉 岩瀬三紀 上嶋健治 大草知子 上田清悟 上床博久
遠藤政夫 大内尉義 大木 崇 大草知子 岡本 洋 大塚邦明
大塚定徳 大塚知明 大森浩二 岡本 洋 加賀谷豊 小川 聡
小川久雄 落合久夫 小野幸彦 加賀谷豊 川口秀明 小川 聡
梶谷定志 藤原啓文 金子 昇 菊池健次郎 岸田 浩 木島祥行 笠貫 宏
河野 了 神原啓文 木原康樹 木村一雄 木村玄次郎 北嶋 泰
北風政史 北島 顕 倉林正彦 河野雅和 小室一成 許 俊鋭 北浦 泰
久保田徹 倉林正彦 小林直彦 齋藤宗靖 酒井 俊 児玉逸雄 楠岡英雄
小玉 誠 犀川哲典 斎藤直樹 澤 芳樹 島田和幸 清野精彦 児玉和久
後藤葉一 佐々木達哉 菅原基晃 砂川賢二 住吉徹哉 高野照夫 是恒之宏
佐久間一郎 白土邦男 高田重男 鷹津久登 竹下 彰 武田信彬 朔啓二郎
島本和明 高田 淳 瀧澤明憲 田中啓治 田中 昌 寺岡邦彦 中島康秀 南都伸介 野崎士郎 長谷部直幸 久留一郎 福並正剛 堀江 稔 堀 正二 増山 理 松村忠史 三嶋正芳 宗像一雄 森下竜一 矢野雅文 山本啓二 李 鍾大

(50音順、敬称略)

賛助会員一覧 (平成16年6月30日現在、50音順)

- あ アストラセネガ株式会社
エーザイ株式会社
大塚製薬株式会社
さ 塩野義製薬株式会社
た 田辺製薬株式会社
第一サントリーファーマ株式会社
第一製薬株式会社
財団法人 体質研究会
大正富山医薬品株式会社
大日本製薬株式会社
は パイエル薬品株式会社
萬有製薬株式会社
ファイザー製薬株式会社
フクダ電子株式会社
藤沢薬品工業株式会社
み 三菱ウェルファーマ株式会社
な 日本化薬株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本メジフィジックス株式会社
帝人ファーマ株式会社
在宅医療開発部

## 第8回日本心不全学会学術集会

-Cell Death and Regeneration in Cardiovascular Diseases-  
&  
心不全の臨床—診断治療の ABC

会期 2004年 9月30日(木)~10月2日(土)  
会場 長良川国際会議場  
会長 藤原 久義(岐阜大学大学院医学研究科再生医科学 循環病態学・呼吸病態学・第二内科 教授)  
事務局 岐阜大学大学院医学研究科再生医科学 循環病態学・呼吸病態学・第二内科内  
※下記に住所を移転いたしました。  
〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1 TEL 058-230-6523/FAX 058-230-6524  
E-mail:jhfs2004@gifu-u.ac.jp http://www.congre.co.jp/jhfs2004/

問い合わせ先 株式会社コングレ (担当: 塚本)  
〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-13 栄第一生命ビル 8階  
TEL 052-950-3369/FAX 052-950-3370  
E-mail:jhfs2004@congre.co.jp

## プログラム内容

会長講演1題/特別講演1題/プレナリーセッション6題/シンポジウム8題/  
教育講演4題/YIA審査講演/モーニングレクチャー4題/ランチョンセミナー4題/  
サテライトセミナー2題/一般口演/ポスター(Case Report)

Hajjar, RJ Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, USA  
Kajstura, J New York Medical College, USA  
Kockx, MM University of Antwerp, Belgium  
Murry, CE University of Washington, USA  
Schneider, MD Baylor College of Medicine, USA  
Zimmermann, WH University Hospital Hamburg-Eppendorf, Germany

## 外国人講演者

## 会長講演

藤原 久義(岐阜大学大学院医学研究科再生医科学 循環病態学・呼吸病態学・第二内科)

## 特別講演

西川 伸一(理化学研究所発生・再生総合研究センター)

プレナリーセッション  
(英語)

Cell Death and Regeneration in Cardiovascular Diseases  
1. Cell death in cardiovascular diseases  
2. Molecular mechanisms in tissue regeneration  
3. Regeneration therapy to cardiovascular diseases-1  
4. Regeneration therapy to cardiovascular diseases-2  
5. Gene therapy to cardiovascular diseases  
6. Tissue engineering in cardiovascular diseases

シンポジウム  
(日本語)

## 心不全の臨床—診断治療の ABC

1. 心不全治療における両心室ペーシングの役割
2. わが国における慢性心不全の診断・治療・予後
3. 慢性心不全の急性増悪の病態と治療
4. 心疾患と無呼吸症候群
5. 心不全時の不整脈管理
6. 心不全に対する外科的治療
7. 心不全とサイトカイン・液性因子
8. 心不全に対する新薬・新しい臨床試験

プレナリーセッションのみ英語で、その他は原則として日本語(英語も可)での口演となります。  
(スライドは和文・英文どちらでも可)

本学術集会において、日本心臓ペーシング・電気生理学会と共同で、「ペーシングによる心不全治療」研修セミナーを開催します。本年4月1日より心不全に対する両心ペースメーカー植込術が保険適応となりました。この治療を行うための認定には、各施設2名以上の医師の本セミナー受講が必要となっております。

## □ Special Lecture (特別講演)

「ES細胞からの心血管系の再生」西川 伸一(理化学研究所・発生再生総合研究センター)

## □ Educational Lecture (教育講演)

1. 「心筋虚血に対する再生医療」池田 宇一(信州大学循環器内科)
2. 「慢性心不全の薬物療法の進歩」野出 孝一(佐賀大学循環器内科)
3. 「心肥大のメカニズム」出雲 正剛(Cardiovascular Reseach, Novatis Institutes for BioMedical Research)
4. 「Vascular Regeneration Therapy: Where are we standing now?」室原 豊明(名古屋大学循環器内科)

## □ Plenary Session (プレナリーセッション)

1. 「Cell death in cardiovascular diseases」

Keynote Lecture: Mark M. Kockx (AZ-Middleheim, Belgium)

P1-1 Cytokine Signaling for the Prevention of Heart Failure

Keiko Takihara (Health Care Center, and Department of Molecular Medicine, Japan)

P1-2 Impact of Granulation Tissue Cell Apoptosis on Postinfarction Ventricular Remodeling and Heart Failure

Genzou Takemura (Gifu University, Japan)

P1-3 A Mechanistic Role of Autophagic Cardiomyocyte Death in the Pathogenesis of Experimentally Induced Heart Failure in Mice

Hiroshi Akazawa (Chiba University, Japan)

2. 「Molecular mechanisms in tissue regeneration」

Keynote Lecture: Michael D. Schneider (Baylor College of Medicine, USA)

P2-1 Non-hematopoietic Mesenchymal Stem Cells can be Mobilized and Differentiate into Cardiomyocytes after Myocardial Infarction

Keiichi Fukuda (Keio University, Japan)

P2-2 Postinfarction Treatment with Cytokines Improves Cardiac Function and Remodeling

Shinya Minatoguchi (Gifu University, Japan)

P2-3 CELL CYCLE AND REGENERATION OF MYOCYTES

Hiroshi Ito (Akita University, Japan)

3. 「Regeneration therapy to cardiovascular diseases-1」

Keynote Lecture: Jan Kajstura (New York Medical College, USA)

P3-1 Cardiac Stem Cell Project for Heart Failure and Angiogenic Cell Therapy by Transplantation of Autologous Bone Marrow Cells

Hiroaki Matsubara (Kyoto Prefectural University, Japan)

P3-2 Clinical Application of Granulocyte Colony-Stimulating Factor as a Novel and Non-Invasive Vascular Regeneration Therapy

Masazumi Arai (Gifu University, Japan)

P3-3 Surgical Regeneration Therapy

Masashi Komeda (Kyoto University, Japan)

#### 4. 「Regeneration therapy to cardiovascular diseases-2」

Keynote Lecture: Charles E. Murry (University of Washington, USA)

P4-1 Cardio-Vascular Differentiation of Embryonic Stem Cell and Functional Gene Analysis

Hirokazu Kurata (Cardio Co. Ltd., Japan)

P4-2 Differentiation of Mouse and Monkey ES Cells into Cardiac Myocytes

Koji Hasegawa (Kyoto Medical Center, Japan)

P4-3 Clinical Potentials of Embryonic Stem Cells for Vascular Regeneration Medicine

Hiroshi Ito (Kyoto University, Japan)

P4-4 Mesenchymal Stem Cell Transplantation in the Treatment of Severe Heart Failure

Noritoshi Nagaya (National Cardiovascular Center Research Institute, Japan)

#### 5. 「Gene Therapy to cardiovascular diseases」

Keynote Lecture : Roger J. Hajjar (Harvard Medical School, Massachusetts General Hospital, USA)

P5-1 Gene Therapy for Heart Failure

Ryuichi Morishita (Osaka University, Japan)

P5-2 A Novel Scheme for the Progression of Cardiac Dysfunction in Humans and Animal Models and its Amelioration with Gene-based Therapy

Teruhiko Toyo-oka (Tokyo University, Japan)

P5-3 In Vivo High Efficiency Transcoronary Gene Delivery in The Adult Rodent Heart

Mitsuo Iwatate (Yamaguchi Rosai Hospital, Japan)

#### 6. 「Tissue engineering in cardiovascular diseases」

Keynote Lecture : Zimmermann, WH (University Hospital Hamburg-Eppendorf, Germany)

P6-1 Clinical Results of Tissue-Engineered Vascular Autografts Seeded with Autologous Bone Marrow Cells

Toshiharu Shin-oka (Tokyo Woman's Medical University, Japan)

P6-2 Neovascularization in Myocardial Tissue Engineering

Tatsuya Shimizu (Tokyo Woman's Medical University, Japan)

P6-3 Significance of Biomaterials and Drug Delivery Technology in Cardiovascular Tissue Engineering

Yasuhiko Tabata (Kyoto University, Japan)

9月30日 (木)		10月1日 (金)		10月2日 (土)	
A会場 1F メインホール	B会場 5F 国際会議場	A会場 1F メインホール	B会場 5F 国際会議場	A会場 1F メインホール	B会場 5F 国際会議場
8:00-10:00 第1回シンポジウム 心不全治療の最新動向	8:00-8:45 モニング1	8:00-8:45 モニング1	8:00-8:45 モニング2	8:00-8:45 モニング3	8:00-8:45 モニング4
10:00-11:00 教育講演1 心不全治療の最新動向	9:00-10:45 セッション2	9:00-11:42 一般演題1 (口頭)	9:00-11:33 一般演題3 (口頭)	9:00-11:25 一般演題5 (口頭)	9:00-11:15 一般演題7 (口頭)
11:00-11:45 教育講演2 心不全治療の最新動向	10:00-10:45 セッション1	11:00-11:45 教育講演1 心不全治療の最新動向	10:00-11:00 ポスター 掲示	11:00-11:45 教育講演3	10:00-11:00 ポスター 掲示
12:00-12:30 総会	12:30-13:30 ランチ	12:30-13:30 ランチ	12:30-13:30 ランチ	12:00-13:00 ランチ	12:00-13:00 ランチ
14:00-14:45 特別講演 心不全治療の最新動向	14:00-14:45 セッション3	14:00-14:45 セッション3	14:00-15:30 セッション1	13:30-15:15 セッション7	13:30-15:15 セッション9
15:00-15:50 閉会式 会費講演	15:00-16:30 セッション4	15:00-16:30 セッション4	15:00-16:30 セッション2	13:30-15:15 セッション8	13:30-15:15 セッション10
16:00-17:45 セッション1	16:00-17:45 セッション5	16:00-17:45 セッション5	16:30-18:00 セッション4	13:30-15:15 セッション6	13:30-15:15 セッション11
18:00-19:00 セッション2	16:30-18:00 セッション6	16:30-18:00 セッション6	17:30-18:00 セッション5	13:30-15:15 セッション12	13:30-15:15 セッション13
19:00-20:00 懇親会	18:00-19:00 セッション7	18:00-19:00 セッション7	18:00-19:00 セッション7	15:30-16:00 閉会式	15:30-16:00 閉会式

心不全治療のトピックス

VALUE試験

鈴木 純\*1, 檜垣実男\*2, 堀内正嗣\*1

\*1愛媛大学医学部分子細胞生命科学講座, 医化学・心血管生物学分野, \*2愛媛大学医学部第二内科

I. はじめに

2004年6月14日, パリで開催された第14回欧州高血圧学会において, VALUE (Valsartan Antihypertensive Long-term Use Evaluation)<sup>1)</sup>の試験結果が発表され, 同時にLancet誌に掲載された。ハイリスク高血圧患者を対象としたVALUEは, 選択的AT<sub>1</sub>受容体ブロッカー (ARB) バルサルタンと, 第三世代Ca拮抗薬アムロジピンの心血管イベント抑制効果を直接比較した初めての大規模臨床試験であり, 世界中から注目されていた。

II. VALUE試験とは

VALUE試験は31カ国, 934施設において, 50歳以上のハイリスク高血圧患者15,245例を対象とした前向き, 無作為化, 二重盲目の大規模臨床試験である。ハイリスク高血圧患者は, 心血管疾患の危険因子 (男性, 糖尿病, 喫煙, 高コレステロール血症, 心電図による左室肥大, 蛋白尿, 血清クレアチニン値150~265 μmol/l), または心血管系合併症 (冠動脈疾患, 脳血管障害, 末梢動脈閉塞性疾患, ストレイン型左室肥大) を1つ以上有する未治療および既治療の高血圧患者と定義した。

対象患者をバルサルタン群とアムロジピン群に無作為に割り付け, バルサルタン80mg/日またはアムロジピン5mg/日より開始した。ハイリスク高血圧患者が対象であるため, 既治療患者においてはウォッシュアウト期間を設けずに被検薬に切り替えた。1カ月後にバルサルタンを160mg/日, アムロジピンを10mg/日まで増量し, 血圧が140/90mmHg未満に到達しない場合は, さらに利尿薬や他の降圧薬を追加投与した。

一次エンドポイントを心疾患死および心疾患発症, 二次エンドポイントを心筋梗塞, 心不全, 脳卒中, 総死亡, 糖尿病新規発症 (WHO診断基準1999) としてそれぞれ比較検討を行なった。なお, 一次エンドポイントの心疾患死は, 心臓突然死, 致死性心筋梗塞, 経皮的冠動脈インターベンションまたは冠動脈バイパス術中・術後の死亡, 心不全による死亡, 剖検で発症後

間もない心筋梗塞を認める場合と定義した。心疾患発症は, 心不全による入院, 非致死性心筋梗塞, 心筋梗塞予防のための緊急処置と定義した。

III. VALUE試験の結果

VALUE試験は, 同等の降圧効果で治療した場合, バルサルタンの心血管イベント抑制効果はアムロジピンよりも優れているという仮説を検証する目的で行われたが, 降圧効果の同等性は確保されなかった。試験終了時 (72カ月) または最終来院時の血圧値は, バルサルタン群139.3/79.2mmHg, アムロジピン群137.5/77.7mmHgであり, 両群とも降圧目標値の140/90mmHgを下回る十分な降圧が得られた (図1)。投与開始1カ月後の血圧値はバルサルタン群に比べアムロジピン群で4.0/2.1mmHg低く, 6カ月の時点でその差は2.1/1.6mmHgに減少したが, 観察期間のいずれの時点においてもアムロジピン群で有意に低かった。血圧値には差が認められたにもかかわらず, 一次エ

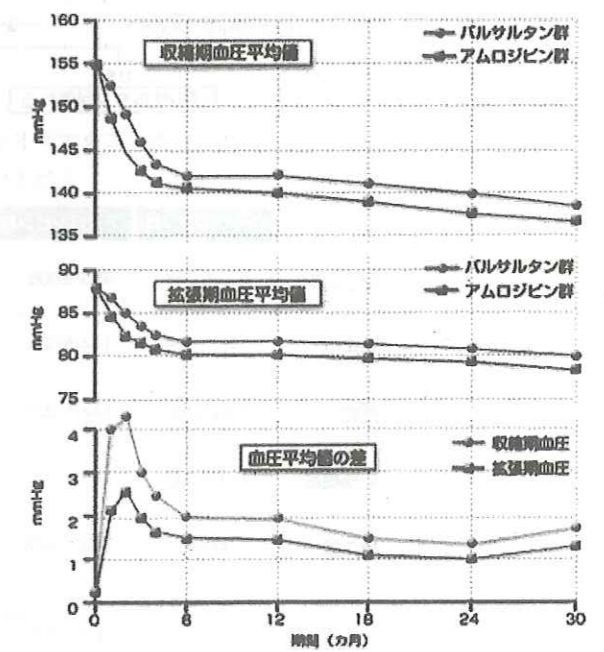


図1 血圧の推移 (文献1)より引用。

ンドポイントである心疾患死および心疾患発症の複合エンドポイントには両群間で差を認めなかった(図2)。また、二次エンドポイントのうち、心不全、脳卒中、総死亡には両群間で有意差を認めなかったが、心不全の発症率はアムロジピン群で高い傾向(p=0.12)を、脳卒中の発症率はバルサルタン群で高い傾向

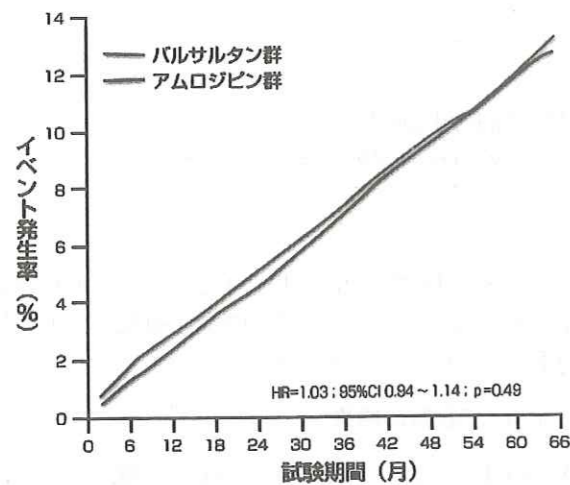


図2 一次エンドポイントの発生率 文献1)より引用。

(p=0.08)を認めた(図3)。心筋梗塞の発症率はバルサルタン群4.8%、アムロジピン群4.1%とバルサルタン群で有意に高かった。一方、糖尿病の新規発症率はバルサルタン群13.1%、アムロジピン群16.4%と、バルサルタン群で有意にリスク低下が認められた。有害事象による投与中止は、バルサルタン群911例(11.9%)、アムロジピン群983例(12.9%)であり、忍容性は両群ともおおむね良好であった。各エンドポイントのオッズ比を経時的に観察すると、投与開始6カ月以内にはいずれもアムロジピン優位の結果を示していたが、その後は降圧幅の差の減少に伴いバルサルタン優位の方に傾く傾向がみられた。この点を考慮し、投与開始6カ月の時点で両群から収縮期血圧、年齢、性、既往症(冠動脈疾患、脳卒中、糖尿病)の有無をマッチさせた患者ペア5,006組を抽出し、補正後の解析(Serial Median Matching)結果<sup>2)</sup>が同時に報告された。解析の結果、心不全の予防効果はバルサルタンが有意に優れていた。一次エンドポイントや他の二次エンドポイントについては両群間で有意差を認めなかったが、それぞれのハザード比はいずれもバルサルタン優位の方に移動した(図4)。

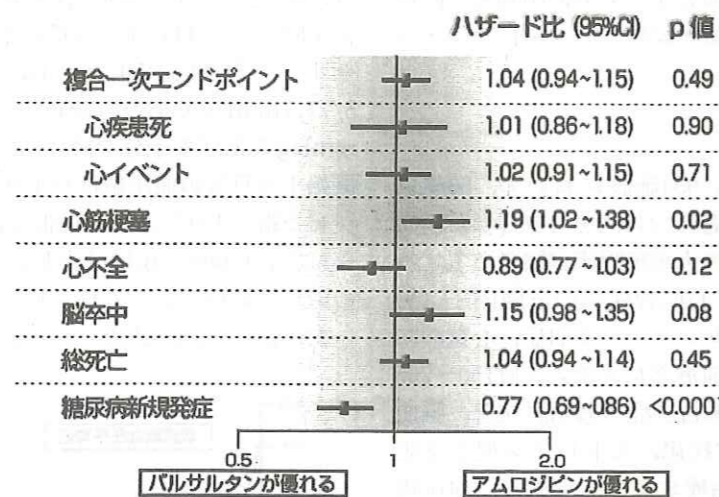


図3 一次・二次エンドポイントのイベントハザード比 文献1)より引用。

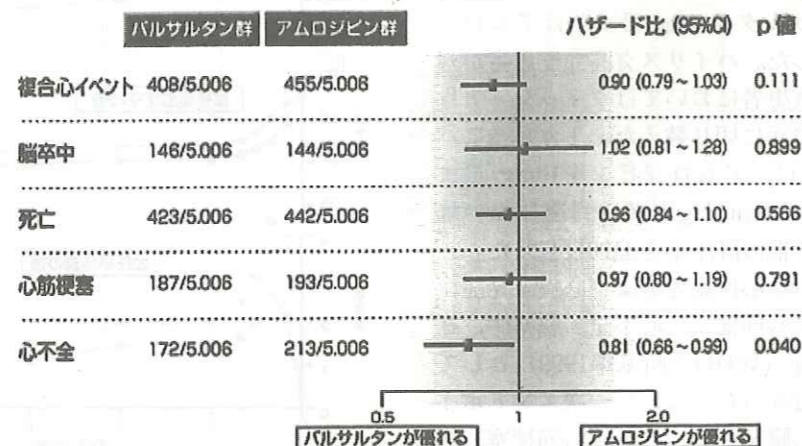


図4 収縮期血圧等を補正後の心血管イベントハザード比 文献2)より引用。

### IV. 考察

わが国ではこれまでCa拮抗薬が降圧薬の主体をなしていたが、多くの基礎研究や大規模臨床試験によってレニン-アンジオテンシン(RA)系抑制薬が単なる降圧効果以上の臓器保護効果、予後改善効果を有することが明らかにされるにつれ、高血圧治療にアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬やARBといったRA系抑制薬がよく用いられるようになってきた。VALUE試験は、ハイリスク高血圧患者に対するバルサルタンとアムロジピンの心血管イベント抑制効果を検証した世界初の大規模臨床試験であり、現在高血圧患者の治療によく用いられているARBとCa拮抗薬のどちらが優れているかを明らかにしようとするインパクトの大きな研究であった。また、目標降圧値の140/90 mmHgを下回る十分な降圧が達成できた数少ない大規模臨床試験であったという点も特筆に値する。

VALUE試験ではアムロジピンの優れた降圧効果が証明されたが、対象患者の約92%が既治療者であり、約40%がCa拮抗薬を服用していたこと、ウォッシュアウト期間を設けずに被検薬に切り替えたことなどが、投与初期に両群間での血圧差を生み、各種イベントに影響を与えた可能性がある。また、試験終了時においてアムロジピン群の約19%が倫理上の点からRA系抑制薬であるACE阻害薬を服用していたことにも注目したい。脳卒中の発症率はアムロジピン群で低い傾向にあり、心筋梗塞の発症率はアムロジピン群で有意に低かった。血圧値補正後の解析では脳卒中、心筋梗塞の発症予防効果は両群とも差は認めなかったことより、今回バルサルタン群で多くみられた脳卒中、心筋梗塞の発症は血圧値の差が大きく影響していた可能性が考えられ、ハイリスク高血圧患者における降圧の重要性が示された。興味深いことに、試験終了時点における脳卒中のオッズ比は、両群間の血圧差にもかかわらずバルサルタン優位側にシフトしており、バルサルタンの長期投与による降圧を超えた予防作用が存在する可能性が示唆された。また、高血圧患者を対象としたACE阻害薬とCa拮抗薬の比較試験であるALLHAT (Antihypertensive and Lipid-lowering Treatment to Prevent Heart Trial)<sup>3)</sup>や、ACE阻害薬と降

圧利尿薬の比較試験であるANBP2 (Second Australian National Blood Pressure Study)<sup>4)</sup>ではACE阻害薬の心不全発症予防効果が認められなかったが、VALUEではRA系抑制薬として初めてARBバルサルタンの心不全発症予防効果が認められた。さらに、バルサルタンはアムロジピンに比べ糖尿病の新規発症率も有意に低下させることが示され、ハイリスク高血圧患者におけるバルサルタンの長期投与の価値が明確になったといえる。

### V. おわりに

VALUE試験の結果により、アムロジピンの優れた降圧効果、ハイリスク高血圧患者に対する降圧の重要性が示された。一方で、バルサルタンの降圧を超えた心不全および糖尿病発症予防効果が確認され、長期投与によりさらなる臓器保護効果が得られる可能性も示唆された。今後、高血圧未治療例のみを対象としたサブ解析の結果が発表されれば、ハイリスク高血圧患者や生活習慣病患者に対するVALUEの意義はさらに明確になっていくものと思われる。

### 文献

- 1) Julius S, Kjeldsen SE, Weber M, et al. Outcomes in hypertensive patients at high cardiovascular risk treated with regimens based on valsartan or amlodipine: the VALUE randomised trial. *Lancet* 363: 2022-2031, 2004.
- 2) Weber MA, Julius S, Kjeldsen SE, et al. Blood pressure dependent and independent effects of antihypertensive treatment on clinical events in the VALUE trial. *Lancet* 363: 2049-2051, 2004.
- 3) ALLHAT Officers and Coordinators for the ALLHAT Collaborative Research Group. The Antihypertensive and Lipid-Lowering Treatment to Prevent Heart Attack Trial. Major outcomes in high-risk hypertensive patients randomized to angiotensin-converting enzyme inhibitor or calcium channel blocker vs diuretic: The Antihypertensive and Lipid-Lowering Treatment to Prevent Heart Attack Trial (ALLHAT). *JAMA* 288: 2981-2997, 2002.
- 4) Wing LM, Reid CM, Ryan P, et al. A comparison of outcomes with angiotensin-converting--enzyme inhibitors and diuretics for hypertension in the elderly. *N Engl J Med* 348: 583-592, 2003.

平成16年度日本心不全学会・総会

議案書

日時：平成16年10月1日（金）午後12時～12時30分

会場：長良川国際会議場 A会場

議長：藤原 久義 会長

次第：

報告事項

- 1. 各委員会報告
- 2. 第8回学術集会
- 3. 第9回学術集会
- 4. その他

審議事項

- 1. 学会事務委託について
- 2. 平成15年度決算書並びに監査について
- 3. 平成17年度予算書案について（当日資料を配布します）
- 4. 第10回会長の選出
- 5. その他

報告事項1. 会員数の推移について

年月	正会員入会	正会員退会	名誉会員	賛助会員入退会	合計
96.12	241				241
97.1	262				503
97.2	43			4	550
97.3	18	1		2	569
97.4	72	1		6	646
97.5	17			2	665
97.6	11			2	678
97.7	9			2	689
97.8	4			7	700
97.9	32			4	736
97.10	99			2	837
97.11	1				838
97.12	3			-1	840
98.1	2				842
98.2	0				842
98.3	1	8			835
98.4	1	1			835
98.5	9	5			839
98.6	4	2			841
98.7	1	1			841
98.8	1	1			841
98.9	38				879
98.10	78				957
98.11	1	2			956
98.12	1	1			956
99.1	1	1			956
99.2	4	1			959
99.3	1	7			953
99.4	9	6		-1	955
99.5	3	1			957
99.6	2	3		-1	955
99.7	1	6			950
99.8	1	3			948
99.9	4	5			947
99.10	20	1			966
99.11	1	5			962
99.12	1	4			959
00.1	0	2			957
00.2	0	0			957
00.3	1	15		-1	942
00.4	5	4		-1	942
00.5	2	1			943
00.6	1	4			940
00.7	3	1			942
00.8	1	0			943
00.9	0	0			943
00.10	10	1			952
00.11	15	4			963
00.12	2	2			963
01.1	1	2			962
01.2	4	2			964
01.3	5	24			945
01.4	4	3			946
01.5	11	1			956
01.6	6	2			960
01.7	6	2		-2	962
01.8	2	0			964
01.9	2	0			966
01.10	11	4			973
01.11	0	1			972
01.12	0	0			972
02.1	1	0			973

年 月	正会員入会	正会員退会	名誉会員	賛助会員入退会	合 計
02.4	3	6			950
02.5	3	1			952
02.6	1	7			946
02.7	0	2			944
02.8	2	4			942
02.9	4	2			944
02.10	12	0			956
02.11	0	3			953
02.12	0	4			949
03.1	0	1			948
03.2	0	1			947
03.3	2	10			939
03.4	3	6			936
03.5	20	4			952
03.6	37	6			983
03.7	19	2			1000
03.8	6	1			1005
03.9	10	1			1014
03.10	27	0	7		1048
03.11	0	1			1047
03.12	2	4	-1		1044
04.1	1	2			1043
04.2	1	2			1042
04.3	2	17		-1	1026
04.4	9	14			1021
04.5	27	1			1047
04.6	12	3		1	1057

逝 去 者

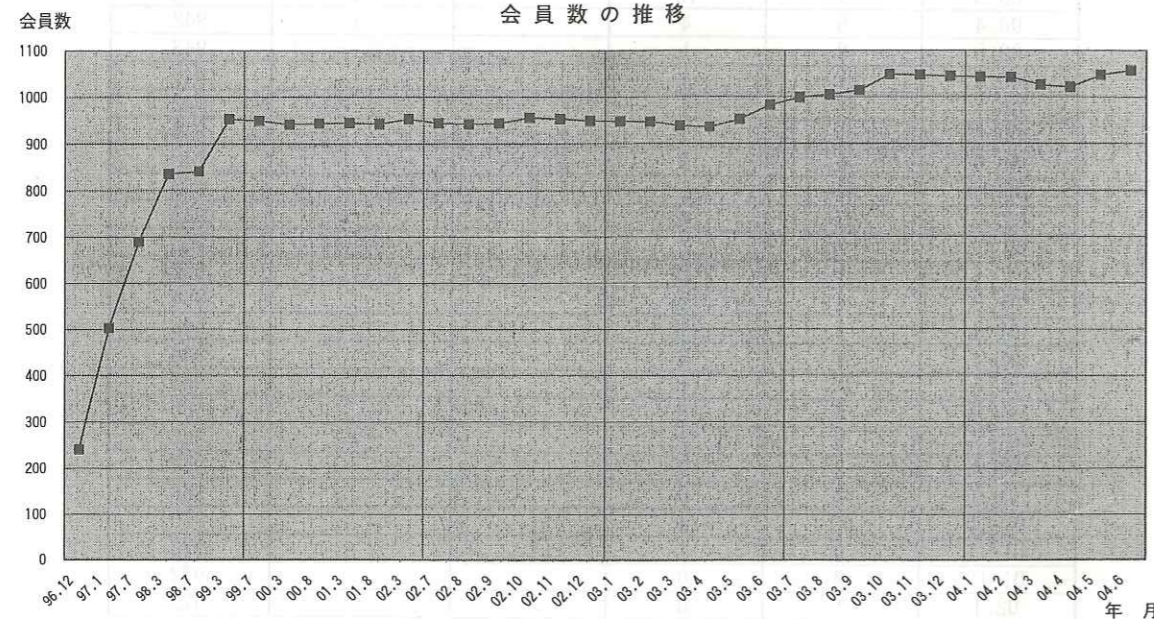
杉下 靖郎 (名誉会員)

神谷 哲郎 (正会員)

中島 久宜 (正会員)

地域別会員数(2004年6月末)

	北海道	東北	関東	中部	甲信越	関西	中国	四国	九州	合計
正 会 員	68	58	269	107	73	256	67	41	89	1028
名誉会員			2	2	1			1		6
賛助会員			14			9				23



審議事項 2

日本心不全学会平成15年度決算書

(2003年4月1日～2004年3月31日)

<収入の部>

科 目	平成15年度 予 算 書	平成15年度 決 算 額	差 異 (△超過)	備 考
会 費 収 入	12,507,000	13,499,000	△ 992,000	
正会員会費	7,707,000	8,699,000	△ 992,000	会費納入率 88.0%
賛助会員会費	4,800,000	4,800,000	0	24社
広告掲載料収入	2,400,000	2,300,000	100,000	ニュースレター
雑 収 入	0	2,006,005	△ 2,006,005	
寄 付 金	0	2,000,000	△ 2,000,000	第7回学術集会からの寄付
受取利息他	0	6,005	△ 6,005	
当期収入合計 (A)	14,907,000	17,805,005	△ 2,898,005	
前期繰越収支差額	3,929,314	6,416,816		
収 入 合 計 (B)	18,836,314	24,221,821	△ 5,385,507	

<支出の部>

科 目	平成15年度 予 算 書	平成15年度 決 算 額	差 異 (△超過)	備 考
刊行事業費	12,300,000	10,167,910	2,132,090	
JCF購読料(vol.9No.1-6)	8,000,000	7,162,600	837,400	
JCF送 料	1,500,000	690,720	809,280	
会報編集制作費(ニュースレター)	2,200,000	2,245,100	△ 45,100	年4回発行
会 報 送 料	600,000	69,490	530,510	
学術集会費	800,000	500,000	300,000	
予稿集発行負担金	500,000	500,000	0	
予稿集送料	300,000	0	300,000	
管 理 費	3,710,000	3,596,299	113,701	
会員管理事務委託費	1,500,000	1,338,603	161,397	
庶務会計事務委託費	1,080,000	1,337,280	△ 257,280	
ホームページ委託費	0	201,600	△ 201,600	
会 議 費	500,000	63,155	436,845	臨時理事会(東京)
通 信 費	300,000	323,908	△ 23,908	
印 刷 費	200,000	192,675	7,325	
雑 費	130,000	139,078	△ 9,078	
当期支出合計 (C)	16,810,000	14,264,209	2,545,791	
当期収支差額 (A-C)	△ 1,903,000	3,540,796		
次期繰越収支差額 (B-C)	2,026,314	9,957,612	△ 7,931,298	



日本心不全学会

### 貸借対照表

2004年3月31日現在  
(単位：円)

借 方		貸 方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産		流動負債	
預 け 金	10,460,432	前 受 会 費	5,730,000
普通預金	5,014,975	未払費用	63,155
前払費用	75,360		
未収入金	200,000	次年度繰越金	9,957,612
		前年度繰越金	6,416,816
		当年度繰越金	3,540,796
合 計	15,750,767	合 計	15,750,767

### 財産目録

2004年3月31日現在  
(単位：円)

#### 資産の部

科 目	摘 要	金 額
預 け 金	(財)日本学会事務センター	10,460,432
普通預金	みずほ銀行/本郷支店	5,014,975
前払費用	会費請求書郵税	75,360
未収入金	広告料	200,000
資産合計		15,750,767

#### 負債の部

科 目	摘 要	金 額
前 受 会 費	2004年度以降分会費	5,730,000
未払費用	理事会会議費	63,155
次年度繰越金		9,957,612
負債合計		15,750,767

収支決算書および財産目録に記載された内容及び金額は上記の通り相違ありません。

2004年 月 日

監事 和泉 徹 印

監事 藤田 正俊 印

### 審議事項 4

平成 18 年度 (2006 年) 会長選出について  
第 10 回会長候補者

#### 次回/歴代会長

- 平成 17 年度 (2005 年)  
第 9 回会長 松崎 益徳 山口大学大学院医学研究科デジタル情報  
制御医学講座器官病態内科学
- 平成 16 年度 (2004 年)  
第 8 回会長 藤原 久義 岐阜大学大学院医学研究科再生医科学  
循環病態学呼吸病態学第二内科
- 平成 15 年度 (2003 年)  
第 7 回会長 堀 正二 大阪大学大学院医学系研究科病態  
情報内科学
- 平成 14 年度 (2002 年)  
第 6 回会長 永井 良三 東京大学医学部循環器内科
- 平成 13 年度 (2001 年)  
第 5 回会長 白土 邦男 東北大学医学部第一内科
- 平成 12 年度 (2000 年)  
第 4 回会長 横山 光宏 神戸大学医学部内科学第一講座
- 平成 11 年度 (1999 年)  
第 3 回会長 竹下 彰 九州大学医学部循環器内科
- 平成 10 年度 (1998 年)  
第 2 回会長 北畠 頭 北海道大学医学部循環器内科
- 平成 9 年度 (1997 年)  
第 1 回会長 篠山 重威 京都大学医学研究科循環病態学

(所属在任時)

## 役割分担

- 総務委員会 \*白土邦男, 和泉 徹, 磯部光章, 井上 博, 今泉 勉,  
大江 透, 北島 顕, 土居義典, 菱田 仁, 松田 暉
- 財務委員会 \*山口 巖, 土居義典, 笠貫 宏, 藤原久義, 横山光宏
- 学術委員会 \*藤原久義, 和泉 徹, 今泉 勉, 小川 聡, 友池仁暢,  
永井良三, 松田 暉, 松崎益徳
- 教育研修委員会 \*松崎益徳, 井上 博, 笠貫 宏, 白土邦男, 永井良三,  
菱田 仁, 横山光宏  
(ホームページ・広報委員会兼任)
- 出版・編集委員会 \*竹下 彰, 磯部光章, 大江 透, 笠貫 宏, 松崎益徳,  
山口 巖, 藤田正俊,
- 規約委員会 \*北島 顕, 今泉 勉, 白土邦男, 竹下 彰, 吉川純一,  
藤田正俊,
- 国際交流委員会 \*吉川純一, 和泉 徹, 小川 聡, 竹下 彰, 友池仁暢,  
永井良三,

(\*は委員長, 五十音順, 敬称略)

## 日本心不全学会会則

## 第1章 総則

- 第1条 本会は、日本心不全学会 (Japanese Heart Failure Society) と称する。  
第2条 本会の運営のため別に定めるところに事務所をおく。

## 第2章 目的および事業

- 第3条 本会は、心不全ならびにこれに関連する分野の研究発表の場を提供し、知識や情報の交換を行うことにより心不全に関する研究を推進し、もってわが国における医学の発展に寄与することを目的とする。  
第4条 本会は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
1) 学術集会の開催  
2) 学術刊行物の発行  
3) 内外の関連学術団体との連絡および協力  
4) その他本学会の目的達成に必要な事業

## 第3章 会員

- 第5条 本会の会員は正会員、名誉会員、特別会員および賛助会員とし、本会の目的達成に協力するものとする。  
1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人  
2) 名誉会員 本会の発展に多年功労のあった正会員とし、理事会および評議員会の議を経て総会で推挙する  
3) 特別会員 心不全学の領域に特に功績のあった正会員とし、理事会および評議員会の議を経て総会で推挙する  
4) 賛助会員 本会の目的に賛同し本会の維持発展に協力を希望する法人、団体または個人  
第6条 会員のその他の資格、権利、義務、入退会などは別に定める細則による。

## 第4章 役員

- 第7条 本会に次の役員をおく。  
1) 理事長 1名  
2) 理事 20名前後  
3) 監事 2名  
第8条 役員を選出  
1) 理事、および監事は別に定める規定にしたがって選出される。監事は理事、会長、幹事などを兼ねることはできない。  
2) 理事長は理事の中より理事会にて選出される。  
第9条 役員職務および任期  
1) 理事長は本会を代表し本会の会務の運営統轄にあたる。任期は2年とし再選を妨げない。  
2) 理事は理事会を組織し、この会則に定められた事項のほか、評議員会および総会の権限に属する事項以外の事項を審議し、本会の運営、執行にあたる。任期は2年とし再選を妨げない。  
3) 監事は本会の会計監査およびその他の会務の監査にあたる。任期は2年とし再選を妨げない。監事はその任期中、理事会に出席できる。  
4) 役員に、役員としてふさわしくない行為があったときは、その任期中であっても、理事会および評議員会の議決によって、これを解任することができる。  
5) 任期中の理事長、監事などの役員に欠あるときは理事会は速やかに後任役員を選出し、評議員会の承認を受けるものとする。その際の後任役員の任期は前任役員の残任期間とする。

## 第5章 評議員

- 第10条 本会に評議員をおく。  
1) 評議員は評議員会を組織し、この会則に定められた事項を決議するほか、理事長の諮問に応じて、本会の運営に関する重要な事項を審議する。任期は2年とし再選を妨げない。

い。

- 2) 評議員は就任年度の4月1日現在で65歳未満のものとする。

## 第6章 大会長

第11条 本会に大会長1名をおく。

- 1) 会長は理事会の推薦により評議員会の議をへて総会において選出される。
- 2) 会長は学術集会を主宰する。任期は選任された日に始まり主宰する学術集会の終了した日に終わる。会長および次期会長はその任期中、理事会に出席する。

## 第7章 幹事

第12条 本会に幹事をおくことができる。

- 1) 幹事は理事会の議を経て、理事長が正会員の中から委嘱する。
- 2) 幹事は理事会の命を受けて本会の会務を分掌する。任期は1年とし再選を妨げない。

## 第8章 会議

第13条 本会の会議はつぎの3種とする。

- 1) 総会
- 2) 評議員会
- 3) 理事会

第14条 総会

- 1) 総会は正会員、名誉会員、特別会員をもって構成する。総会は年1回の定期総会および臨時総会とする。
- 2) 理事長は、年次学術集会の期間中にその開催地において定期総会を召集し、理事会ならびに評議員会の決定事項を報告する。
- 3) 理事長は、理事会または評議員会が必要と認めたとき、および総会構成員の5分の1以上から会議の目的を示して請求のあったときは、60日以内に臨時総会を召集しなければならない。
- 4) 定期総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は出席者の中から互選によって選任する。
- 5) つぎの事項は総会の承認を要する。
  - (1) 事業計画および収支予算
  - (2) 事業報告および収支決算
  - (3) 会則の変更ならびに本会の解散
  - (4) その他、理事会において必要と認めた事項
- 6) 総会において議決した事項は会員に通告しなければならない。
- 7) 総会の成立には、委任状を含めて代議員の2分の1以上の出席を要とする。代議員については細則に定める。

第15条 評議員会

- 1) 評議員会は評議員をもって構成する。評議員会は年1回の定期評議員会および臨時評議員会とする。
- 2) 理事長は、定期総会の会期の前に定期評議員会を召集する。
- 3) 理事長は、理事会が必要と認めたとき、および評議員の2分の1以上または監事の請求のあったときは、40日以内に臨時評議員会を召集しなければならない。
- 4) 評議員会の議長は原則として会長とする。ただし会長が認めたときは理事長もしくは会長が指名した者が議長を務めることができる。
- 5) 評議員会の成立には委任状を含めて評議員の2分の1以上の出席を要する。
- 6) 評議員会は次の事項を審議し、総会に報告して承認をもとめる。
  - (1) 理事、会長、監事の選出および推薦
  - (2) 事業および収支報告
  - (3) その他、評議員会において必要と認めた事項

第16条 理事会

- 1) 理事会は理事および会長をもって構成する。
- 2) 理事長は必要に応じて理事会を召集する。
- 3) 理事長は、理事の2分の1以上または監事の請求のあったときは、すみやかに理事会を召集しなければならない。
- 4) 理事会の議長は理事長とする。
- 5) 理事会の成立には、委任状を含めて理事現在数の2分の1以上の出席を要する。

第17条 議決および議事録

- 1) すべての会議の議事は特に定められた場合のほかは、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 2) すべての会議の議事録は議長の責任において作成し、議長および出席代表者2名が署名して、これを保存する。

## 第9章 委員会

第18条 本会はその業務を行うため必要とする委員会を理事会の議を経て、おくことができる。

第19条 委員会の委員および委員長は理事会の議を経て、理事長が正会員の中から委嘱する。

## 第10章 会計

第20条 本会の経費は会費、寄付金、各種補助金、その他をもってこれにあてる。会費は評議員会でこれを定め、総会の承認を得るものとする。

第21条 本会の収支予算は会計年度開始前に理事長が編成し、理事会および評議員会の議決を経て、総会の承認を受けなければならない。

第22条 本会の収支決算は会計年度終了後に理事長が作成し、監事の監査を経て、評議員会および総会の承認を受けなければならない。

第23条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第11章 会則の変更および解散

第24条 本会の会則は理事会および評議員会の議決を経たうえ、総会の承認を受けなければ変更することはできない。

第25条 本会は、理事会および評議員会において、それぞれ4分の3以上の同意を得て、かつ総会の承認を受けなければ解散できない。

第26条 本会の解散後の残余財産は、理事会および評議員会の議決と総会の承認を受けて、本会の目的と類似の目的を有する公益事業団体に寄付する。

## 第12章 補則

第27条 本会則の施行についての細則は理事会および評議員会の議決を経て、別に定める。

第28条 本会則の解釈について疑義が生じた場合には理事会の判断による。

付 則

1. 本会則は平成8年9月27日から施行する。
2. 本会発足にあたる初年度の会計年度は本会則20条の条項にもかかわらず例外として会の発足の日より平成10年3月31日までとする。
3. 本会則は平成13年10月25日から改正する。但し、役員任期については、現在の任期終了後より施行する。
4. 本会則は平成15年10月24日から改正する。

## 第4章 理事および監事の選出

第14条 理事の選出は、理事会が評議員のなかから理事候補者を推薦し、評議員会において選出し、総会で承認を得て決定する。

第15条 監事の選出は、理事会が評議員のなかから監事候補者を推薦し、評議員会において選出し、総会で承認を得て決定する。

## 第5章 会費

第16条 本会の会費は次の通りとする。

- |         |    |             |
|---------|----|-------------|
| 1) 正会員  | 年額 | 10,000円     |
| 2) 賛助会員 | 年額 | 1口 200,000円 |

## 第6章 補則

第17条 本細則は理事会および評議員会の議決を経て変更することができる。

第18条 本細則の解釈について疑義が生じた場合には、理事会の判断による。ただし、疑義の生じた項目の改正を速やかに行わなければならない。

第19条 付則

本細則は平成13年10月25日より施行する。

但し「賛助会員の会費改定については平成14年度会費からとし、役員の任期については、現在の任期終了後より施行することとした」。

本細則は平成15年10月24日から改正する。

## 日本心不全学会会則施行細則

## 第1章 事務局

第1条 本会の事務局は財団法人日本学会事務センター（東京都文京区本駒込5-16-9）におく。

## 第2章 会員

第2条 本会に入会を希望するものは、所定の入会申込書を本会事務局に提出する。

第3条 会員は別に定める年会費を前納しなければならない。既納の会費はいかなる理由があってもこれを返納しない。正当な理由なく会費を2年以上滞納したものは退会したものと認める。名誉会員および特別会員は会費の納入を要しない。

第4条 本会は、会員に本会の機関誌を配布する。

第5条 会員は、本会が催す各種の事業に優先的に参加することができる。ただし賛助会員はこれらの事業を傍聴できるものとする。

第6条 正会員のうち評議員をもって代議員とする。

第7条 名誉会員および特別会員は、評議員会に出席し発言できる。

第8条 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあった会員は、理事会および評議員会の議を経て、除名することができる。

第9条 会員は、つぎの事由によりその資格を喪失する。

- 1) 退会の届出をしたとき
- 2) 死亡
- 3) 除名
- 4) 2年を越えて会費を滞納し、かつ勧告に応じないとき

## 第3章 評議員の選出

第10条 評議員の選出は、正会員の申請に基づき理事会の推薦を経て、評議員会において選出し、総会で承認を得て決定する。

第11条 正会員が、評議員に申請するにあたっては、下記の書類を理事長（事務局気付）に提出する。

- 1) 評議員申請書  
所定の申請書に評議員2名の推薦者を必要とする
- 2) 履歴書（書式自由）
- 3) 業績目録（書式自由）

第12条 再選の場合も、1)項および2)項にしたがって選出する。ただし、再選の場合は、評議員2名の推薦者は必要としない。

第13条 選出された評議員は、任期終了後一度まではそのまま再選される。その後は施行細則の規定に従って選出される。

学会カレンダー (2004年)

開催日	学会名	会長	所属	会場
9月4日	第10回日本心臓リハビリテーション学会	和泉 徹	北里大学内科学	北里大学L-3号館 4階 (相模原市)
9月13日~14日	第21回日本心電学会	大江 透	岡山大学循環器内科	国立京都国際会館 (京都市)
9月13日~15日	第52回日本心臓病学会	中野 赴	三重大学第一内科	国立京都国際会館 (京都市)
9月16日~18日	第40回日本移植学会	清水信義	岡山大学 腫瘍・胸部外科学	岡山コンベンション センター (岡山市)
9月23日~25日	第4回日本心血管カテーテル治療学会	多々見良三	舞鶴共済病院 循環器科	国立京都国際会館 (京都市)
10月5日~7日	第42回日本人工臓器学会	工藤龍彦	東京医科大学 八王子医療センター	京王プラザホテル (東京都)
10月7日~9日	第27回日本高血圧学会	松岡博昭	獨協医科大学 循環器内科	栃木県総合文化センター (宇都宮市)
10月28日~30日	第45回日本脈管学会	安田慶秀	北海道大学 循環病態学講座 循環器外科	ロイトン札幌 (札幌市)
11月4日~6日	第44回日本核医学会	西村恒彦	京都府立医科大学 放射線診断治療学	国立京都国際会館 (京都市)
11月5日	第18回日本心臓血管内視鏡学会	淀野 啓	東邦大学佐倉病院 臨床生理機能研究室	シティ弘前ホテル (弘前市)
11月25日~26日	第8回日本心血管内分泌代謝学会	江藤胤尚	宮崎大学 内科学第一講座	宮崎厚生年金会館 (宮崎市)
12月10日~11日	第18回日本冠疾患学会	本田 喬	済生会熊本病院 心臓血管センター	全日空ホテルズ ニュースカイホテル (熊本市)

News Letter 編集事務局より  
お知らせ

2001年より、日本心不全学会 NewsLetter の発行に関する業務は、学会の出版・編集委員会が企画しています。現在「心不全研究の最前線」、「心不全治療のトピックス」、「海外研究室紹介」、「学会カレンダー」を掲載しており、多くの先生に大変好評をいただいております。原稿をいただいた先生方には、あらためまして厚く御礼申し上げます。

今後とも、さらに内容の充実をめざしていきたいと考えております。企画に関しまして、ご意見・ご提案などございましたら、下記編集事務局までご連絡いただければ幸いに存じます。会員の諸先生方のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

出版・編集委員会委員長  
竹下 彰

日本心不全学会 News Letter 編集事務局担当  
筒井裕之

日本心不全学会 NewsLetter 編集事務局の連絡先

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学大学院医学系研究院 循環器内科学  
日本心不全学会 News Letter 編集事務局  
筒井裕之・深松洋子  
TEL: 092-642-5360 FAX: 092-642-5374  
E-mail: prehiro@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp

日本心不全学会入会のご案内

本学会は、心不全ならびにこれらに関連する分野の研究発表の場を提供し、知識や情報の交換を行うことによって心不全に関する研究を推進し、わが国における医学の発展に寄与することを目的としております。平成8年に設立、今年で8年が経過いたしました。

本会のさらなる充実に向け、会員の増強を行っております。ご入会を希望される方がおられましたら、是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

▶ 会員の特典

1. 日本心不全学会と米国心不全学会の共通の機関誌「*Journal of Cardiac Failure*」が配布されます。
2. ニュースレターが年4回配布されます。

▶ 入会手続き

下記事務局宛にご連絡ください。折り返し「入会申込書」をお送りいたします。または、ホームページより入会申込書をダウンロードし、郵送して下さい。

〒565-0871 吹田市山田丘2-2  
大阪大学大学院医学系研究科  
病態情報内科学 (循環器内科学)  
E-mail: jhfs\_secretariat@medone.med.osaka-u.ac.jp

▶ 年会費

正会員 10,000円

▶ 会費の送金方法について

入会申込書を返送していただいてから1カ月以内に請求書を発行しますので、最寄りの郵便局または銀行よりお振込みください。

日本心不全学会 News Letter Vol. 8, No. 3

2004年9月1日発行

編集・発行●日本心不全学会  
http://www.jhfs.gr.jp/  
〒565-0871 吹田市山田丘2-2  
大阪大学大学院医学系研究科  
病態情報内科学  
郵便振替 00130-7-667858